

万が一を考える！

～命を守る訓練が終わりました～

校長 土屋 美之

1月24日(金)に、第3回目となる命を守る訓練を行いました。

今回は掃除時間前に地震が発生したことを想定し、緊急地震速報が流れたら動きを止め、自分の安全を確保することの確認をしました。

- 放送が流れた時には口を閉じて放送を聞く
- 教室では、机の下に頭を入れ、机の脚をしっかり持つ
- 廊下や外では、窓や倒れて来そうな物から離れ身を低くする
- 運動場では、校舎や倒れて来そうな物から離れ身を低くする
- 近い避難口から、壁や倒れてきそうな物から離れて避難する
- 教室に戻らない
- 頭を覆うことのできる物が身近にある時はそれを使用する
- 南舎から北舎の通路は使用しない
- 運動場では各学年の集合場所に整列する
などです。

日本は地震大国です。昨年1月には石川県で大きな地震が起きました。今月初めにも九州で地震が起っています。南海トラフ大地震も今後30年の間には80%の確率で地震が起きるとも言われています。

私たちは自然の前には無抵抗です。だからこそ、万が一のことを備えて、シュミレーションしておくことは大切だと思います。児童には、もし地震が起きた時には、上記のことに付け加えて、家族とどこで落ちあうのか確認してほしいと話をしました。もうすでに確認されていると思いますが、改めて待機場所や防災グッズを子どもたちと共に確認してください。また、自宅の中で危険なところはどこか、一番安全なところはどこか、自宅近くで危険なところはあるのか、どんな危険があるのか等、これを機会にいろいろと話し合ってみてください。子どもだからこそその視点も出てくるかもしれません。

なお、今回の訓練で、一番最初に避難した子どもたちが「並ぶよ」「〇年生はここです」と積極的に声をかけていました。高学年も「静かにするよ」と声をかけたり、やペアの子を優しく誘導したりする姿が見られました。おかげで、素早く整列することができました。

自分たちで、何が大事なのか考え、そして行動にうつすことができる土岐っ子はすごい！

